

## IRRSフォローアップミッション記者会見

- 日時：令和2年1月21日（火）11:30～
- 場所：原子力規制委員会会議室CDE
- 対応：グレッグ・ルツェントコウスキー氏、ラムジー・ジャマール氏、更田豊志委員長

### <合同記者会見>

事務局 それでは、定刻になりましたので、これからIAEAによる記者会見を行います。

いつものお願いでございますけれども、質問される方は手を挙げていただいて、所属と名前をおっしゃってから質問の方をお願いいたします。

それでは、司会の方はIAEA、ダールの方からさせていただきます。

司会 皆様おはようございます。IRRS対日フォローアップミッションの記者会見に、ようこそおいでくださいました。同ミッションは、つい先ほど終了したばかりであります。

そして、プレスリリースは英語で発行されておりまして、NRAによりまして、既に日本語にも翻訳されておりまして、本日は本ミッションの成果に関してという記者会見になっておりますが、更田委員長が原子力規制委員会から出席されていらっしゃいます。

また、本ミッションのチームリーダーでありますラムジー・ジャマール氏、カナダ原子力安全委員会上席副長官兼最高規制業務責任者も同席していらっしゃいます。

そして、皆様の左側にはグレッグ・ルツェントコウスキーIAEA施設安全部部長が出席しています。

まず最初に、3名から短い発言をいただき、そして、皆様からミッションのトピックについて御質問をお受けしたいと思っております。計約1時間の会見としたいと思っております。

では早速、グレッグからお願いいたします。

グレッグ・ルツェントコウスキーさん、どうぞ。

グレッグ・ルツェントコウスキー氏 簡単に御説明したいと思います。なぜ、我々が今日ここにいるのか。

安全に関しましては、IAEAは加盟国に対して、安全規制がきちんとなっているのか、そして、それが、実施が効果的になっているのかということレビューする立場にあります。その有効性を確認する1つのツールとして、IRRS、規制レビューミッションがあるわけです。それが今回のIRRSで、イニシャルミッションが2016年、今回は8日間の第2回のミッションでした。

これは、統合的な規制のレビューサービスと呼ばれているもので、目的は、国の原子力安全の規制の枠組みを強化するということです。

その際、最良の国際スタンダードの基準に合うよう、そして、IAEAの安全基準に整合性があることを確認しています。

原子力安全規制というのは、非常に重要なコンセプトです。それは、国の設定責任でもありますけれども、国際的なチャレンジでもあります。

ということで国際コミュニティとして、協力して原子力の安全を高めるということは、我々全員の責任であると考えております。

ラムジー・ジャマール氏 改めまして、おはようございます。

チームリーダーといたしまして、私から申し上げたいと思います。

事実といたしまして、日本は相当の改善をとげられました。NRA、原子力規制委員会が、完全なる機能を持つ独立な規制機関としてのあり方において、相当な成長をとげられました。今回のプログラムにおきまして、レビューを完了するにあたって申し上げるのが非常に重要だと考えておりましたのが、産業界とのコミュニケーション、特に頻繁なコミュニケーションは、前向きなステップ、段階で、原子力安全に資するものと、考えるべきであり、そして同時に、それが規制当局の独立性を損なうものであってはならないということでもあります。

そして全世界の規制機関、規制当局というものは、公衆、そして、環境の保護のために、原子力安全を担保する責務を担っているというべきであります。

司会 ありがとうございます。

更田委員長、お願いいたします

更田委員長 今回のIRRSフォローアップミッション終了にあたって、私からも御挨拶を申し上げます。

まず初めに、連日、朝早くから夜遅くまで、さらに週末までも含めて、作業にあたっていただいたIRRSチームの皆さんに、心より感謝を申し上げます。

多くの規制委員会、規制庁メンバーに真摯に向き合っていただき、大変活発な議論を行っていただきました。

イニシャルミッションの際もそうでしたが、このフォローアップミッションにおいても、その成果は、これからIAEAより発行される報告書だけでなく、活発な議論そのものにもあったと感謝をしております。

2016年のIRRSイニシャルミッションでは、独立性と透明性のある原子力規制機関が法的に位置づけられたことや、東京電力福島第一原子力発電所事故の教訓、シビアアクシデント対策、厳しい自然災害への対応を迅速かつ実効的に規制に飛び込んできたことなど、原子力規制委員会が発足以来続けてきた取り組みについて高く評価をしていただきました。

さらに、それまでの検査における課題などについて、13の勧告、13の提言をいただきました。

今回のIRRSフォローアップミッションでは、これらの勧告及び提言について、原子力

規制委員会を進めてきた改善の実施状況及び達成状況を中心にレビューをしていただきました。

原子力規制委員会はイニシャルミッションにおいて勧告・提言を受けた課題に対して真摯に向き合い、改善措置を講じてきました。今回のレビューの中で、新しい検査制度に向けた取り組みが高い評価を得たことは、大きな喜びとするところです。

しかし、新しい制度に基づく検査は、これから始まろうとしているところであり、確実な実施に向けて、今後も努力を続けていく所存です。

東京電力福島第一原子力発電所事故の重要な教訓の1つは、継続的改善の欠如です。

原子力災害にとって、継続的改善を怠ることは今後とも許されるものではありません。自己満足に陥ることなく、今後とも、継続的な改善に注力していくことをここで改めて誓いたいと思います

今回のIRRSフォローアップミッションは、継続的な改善を進める私たちの背中を押していただいたものだと考えています。

さらに、今回のミッションでは、イニシャルミッションのフォローアップに加えて、新たに、放射性物質の陸上輸送に対する規制についてレビューをしていただきました。

我が国の放射性物質の陸上輸送に対する規制は、基本的にIAEAの安全基準に則って実行されているとの評価をいただきましたが、合わせて、いくつかの勧告と提言をいただきました。これらについても真摯に受け止め、さらなる継続的な改善を図る中で、着実に対応していきます。

今回のIRRSフォローアップミッションの報告書はIAEA内での手続を経て、約3か月後に報告書としてまとめられることとなりますが、報告書の発行を待たずに、課題解決に向けた改善の取り組みを開始していきたいと考えています。

ありがとうございました。

#### <質疑応答>

司会 ありがとうございました、更田委員長。

それでは、皆様からの御質問をお受けしたいと思います。

御質問の際には、まず、御氏名、所属をおっしゃっていただいた上で、御質問をお願いいたします。御質問はありますか。

はい、どうぞ

記者 毎日新聞のアラキです。

更田委員長にお伺いいたします。

今回、新検査制度について大きく評価していただいたということなんですけれども、どのような点について評価を受けたのかっていうのを伺いいたします。

更田委員長 まず、この検査制度そのものというのは、今年の4月1日に施行されるもので、まだ実施段階に入ってるわけではありませんけれども、それに先立って様々な文章、

その制度を支える公的な文書の整備であるとか、あるいは、検査にあたる人員の人材育成、それから、検査の中では、起きた事象の安全性の重要度を評価するような仕組みがありますけども、こういった仕組みに対する、準備段階における整備がきちんとしたものであるというような評価をいただきました。

ただ、報告書そのものは3か月後に公開という形ですので、細部にわたる部分については、ここでお話することはできませんけれども、検査制度の実施に向けた準備全体にわたって、IAEAの基本的要件を満たしているという評価をいただいたことは、大変嬉しく思っております。

記者 ありがとうございます。

司会 この同じでトピックで、どなたか他に追加の御発言はありますか、

ラムジー・ジャマール氏 チームリーダーとして、私の観点からも申し上げたいと思います。

チームリーダーから申し上げますと、重要な改善がどこから出てきたかと言いますと、まず、検査官の権限です。

検査官は、施設内にいつでも入ることができる。そして、これは福島第一の事故以前と比較して改善でありまして、また、規制プログラムも強化されたと評価いたしました。

そして、検査官の教育訓練は非常に重要であります。また、検査官に対して付与されている権限が大きな改善と見ました。

また、更田委員長がおっしゃいましたように、検査プログラムの検査制度の実施そのものに関しては、やるべき作業がたくさんありますけども、ツールの整備、それから、専門能力、また、職員、検査員の人的資源という意味では、適切な作業をされたと評価をしております。

司会 ありがとうございます。次の方どうぞ。

記者 日本経済新聞のフクオカと申します。

2点、質問がございます。ジャマールさんでお願いしたいんですけども。

まず1点目が、このプレスリリース文と、あと、先ほどのコメントの中でおっしゃっていたんですけども、日本の原子力産業界とより密接に交流することを奨励したというふうなお話をされていたかと思うんですけども、これは、今、原子力規制委員会が、日本の原子力産業界とのコミュニケーションが今はまだ不十分だという御認識の上で、そのような御指摘をされたのでしょうか、そこを教えてください。

ラムジー・ジャマール氏 質問をありがとうございます。

現在、NRAは余り豊富な交流ができているとは思いません。コミュニケーションができているとは思いません。我々の国際的な基準からして、あるいは、他の規制当局といたしまして、産業界とのコミュニケーションというのは非常に重要だということを考えてい

ます。

つまり、産業界で行われている様々な改善に関して、規制当局は、それほど十分に理解していないことが多いわけです。ですから、より実行力のある規制当局として規制活動するためには、様々な産業界で行われている技術的な革新であるとか改善、それから知見に接していなければいけない。そして、その反対に、産業界に対して、改善を促す、あるいは研究を促進するように提言する、そして、最終的に、原子力安全性を高めていく。孤立してはいけないというふうに考えています。それは、規制当局として原子力の安全を高めるものにはならない。もちろん独立性というのは重要ですけども。記者 今の話を受けて、更田委員長何かコメントがあればお願いします。

更田委員長 まだ報告書が出てないというのは先ほど申し上げたとおりなんですけどもこれは、極めて具体的な指摘に結びついているもので、これは、こちらからも現状を説明した上で指摘を受けたのは、人材育成の際に、例えば非常に現場に密接な人材育成というのは、事業者の方で行われている。

例えば、私たちは、もちろん検査官は発電所等にいるわけですけども、審査にわたる職員だとか、それから、この本庁の方で様々な規制業務に携わっている職員が現場の経験を持つということはまだ、私は、もっともっと奨励されるべきだと思っているんですが、一方で、例えば、発電が、電力会社が行っている様々なコース、プログラムのようなものに、うちの職員を送る、例えば、参加させてくださいというようなことはまだ取り組んでいない。

ところが、各国では当たり前のことで、例えば電力会社での運転員ですとか、保全に当たる方々のためのプログラムに、規制当局から若手・中堅の職員も参加していくということは当たり前に行われていることなんですけども、日本の場合は、これも東京電力福島第一原子力発電所事故の、ある意味、余波ではありますけれども、規制庁職員を電力会社のプログラム、これは全くないわけではなくて、電中研が行っているような、確率論的リスク評価のコースなどには、うちの職員が参加するという仕組みはありますけども、もっとより現場に近いところ、発電所で運転員を育成するためのプログラムにうちの職員が参加できるような、そういったものがあってしかるべきというのは、極めて具体的な指摘として受けたので、現在、私たちは、例えばCEOレベルだとか、CNOレベル、それから、審査に当たっている人たちとの間のコミュニケーションというのは随分進んでいるわけですけども、さらに言うと、これは人材育成、それから安全研究であるとか、そういった技術の分野で、さらに私たちのコンピテンスと言いますか、能力を高めていくためには、利益相反の問題であるとか、独立性の問題であるとか、というのは注意深くなければいけないわけですけども、これは大変貴重なコメントをいただいたと思っています。ただ、相手のあることですので、電力会社の方にしてみると、自分たちのコースに規制庁職員がいたんじゃないか、という声もあるかもしれないけど、これは、ぜひ進めていきたい取り組みだというふうに思っています。

記者 ありがとうございます。

もう一点、ジャマールさんにお伺いしたいんですけども、今回、プレスリリース文にあります勧告を出したのものとして、従事者に対する放射線防護の規制監督のさらなる強化という点が挙げられているかと思うんですけども、これについても、現状の規制委員会の取り組みが、どの点が不順なのかということをお教えいただけますでしょうか。

ラムジー・ジャマール氏 御質問ありがとうございます。

そちらのコメントですけれども、今日までのNRAの改善をベースにしたコメントだったんです。新たに、多くの基準が次々と出てきます、前回のミッションにおいてはなかった基準もあるわけです。IAEAの安全基準の旧版に沿っていたものですが、新しい改訂版が出ています。ということでIAEAの新たな安全基準に則って、さらに、放射線防護を高めなければいけない。それによって、IAEAの安全基準の変更に整合するようにならなければいけない。

90%はできているんです。非常に確かな実行力のある基盤ができています。残り10%未満ですけども、頑張っしてほしいという思いで述べました。

記者 ありがとうございます。

司会 では、ほかに御質問のある方。はい、そちらの方。

記者 共同通信のタケウチと申します。

ジャマールさんにお伺いします。

先ほどの日経新聞さんの質問の続きにはなるんですけど、先ほどの産業界とのコミュニケーションという点での、更田委員長も少し言及されました利益相反や独立性というところには注意しなければいけないというのがあると思うんですが、これを確保しながら、要は、そのコミュニケーションを取るにあたって重要なこと、視点などがあればお伺いできますでしょうか。

ラムジー・ジャマール氏 御質問ありがとうございます。

確かに、確実に更田委員長がおっしゃったことに追加をしたいと思います。

規制当局と産業界の協力に関してです。

トレーニング、訓練のプログラム、教育プログラムというのは、1つの側面です。また、もう一つの側面は、規制当局が孤立していて、そして要求事項を一方向的に押し付けるということは、安全性、環境、そして公衆に対して、強化するものではないということで、それは間違った判断だということになります。

ですので、教育、訓練及びコミュニケーションに加えて、規制当局は、要求事項として、事業者が重要な安全性から目をそらして、マイナーな要求事項案にとらわれてしまわないような、そういう正しい要求事項設定を規制当局がすることが重要なのであります。

そして、常に産業界が規制当局とコミュニケーションを持つ。しかし、独立性を持つ

た形で規制当局が判断をする。

そして、産業界とのコミュニケーションを取ることによって、規制当局が産業界の進捗を認識した上で規制を敷くということが重要だということを、委員長との議論の結論といたしました。

そして、教育、また学習の目的、世界各地でそういった教育訓練学習の目的のもとに、実際に、実践のプラクティスとして多くの政府に属する職員や規制当局、例えばカナダもそうですけど、職員が産業界の教育プログラムなどに直接参加して、深掘りした形で産業界の実務を理解する、また考え方を理解するということが行われております。

こういったことが行われることが、日本においても、NRAと産業界がコミュニケーションをさらに密にすると考えています。

記者 お伺いしたかったのは、独立性や透明性も含めて、産業界との接点において、特に注意を払わなければいけない点というのは、どのようにすることが、誤解を招かずにコミュニケーションをよくすることになるかという点についてお伺いできますか。

ラムジー・ジャマール氏 既存の原子炉規制委員会が敷いている規制のシステムは、業界に対して、検査官が独立に意思決定をすることができる、そして最終的に、NRA規制庁が、また原子力規制委員会が判断するということになっております

そして、さらにそれに深みを持たせるために、検査官が何か指摘をした時に、本部と規制庁の行動をどう取るかということ連携して、最終的に、検査で指摘された状況に鑑みて、本部の方で規制行動はそのようにして決定されるわけです。

ということで、利益相反があり得るかという御質問であれば、それは、答えはNOだということになります。担当者から独立した立場にある者が最終判断を下す、そしてNRAの本部において、最終的な判断が重ねて行われるわけでありまして。

なので、全体的な判断にはそのような追加的な階層のレイヤが加えられていたことで、独立性は担保されています。

記者 ありがとうございます。

あと、総括的な問いにはなるんですが、前回のイニシャルミッションと、今回のフォローアップでの改善を含めて、全体的に見た時に、福島第一以前の規制当局というのは、日本は独立性も不十分で、批判を受けておりましたが、イニシャルミッションと今回のフォローアップを含めて考えた場合に、日本の規制当局は、国際的にみて高い水準にあると言えるのか、どのような評価ができますでしょうか。

ラムジー・ジャマール氏 NRAのことですね。私どもがお見受けしたところでは、トップの規制当局の1つではないかと。仕事の量、改善への努力、そして改善措置をしようとしている、その仕事の質が素晴らしい。非常に成熟した能力のある、能力の高い実行力のある規制当局だと思います。

全ての規制当局は、しかしながら、さらなる継続的改善のために努力を続けなければいけないことには変わりはありません。でないと自己満足に陥ります。

ですから、事故以降、規制当局は様変わりしました、日本におきましては。独立性も高まりましたし、透明性も高まりました。そして、意思決定のプロセスも非常に確かなものがあります。

司会 他に何か、この質問に関して付け加えることはありますか。

記者 朝日新聞のフクチと申します。プレスリリースの中で、グレッグさんのコメントの中で、規制委員会は公衆と環境を適切に保護するために、規制対象の施設や活動のリスクに見合った形で実施することが必要とされるプログラムの強化を図ったとあるんですが、これはどういうことを具体的に指しているのでしょうか。

グレッグ・ルツェントコウスキー氏 質問をありがとうございます。

ここで言いたかったのは、規制上の意思決定というのは施設のリスクに応じて行わなければいけない、ということで、等級別取扱が必要だということです。これが最適化につながる。規制のアクション、あるいは活動、意思決定の実効性、つまり、規制が不十分な施設、あるいは規制がかかりすぎる施設がないようにということで、そういった趣旨でした。

記者 今回、調査された中で、規制が重過ぎる、オーバーワークと言うか、規制をかけ過ぎじゃないかという実例がありましたら、教えていただけますでしょうか。

グレッグ・ルツェントコウスキー氏 それに答えるのは難しいと思います。

IRRSのミッションでは、フレームワークの方を見えています。ですから、その実効性を見ているわけですので、そのためには経験や、それから色々な活動が含まれてくるわけなんですけれども、検査官と、それから評価官は必要な経験を積んでいき、その経験をもとにリスクを鑑みて、きちんとした意思決定をするということを学んでいくのだと思います。

これが、実行力のある規制にとっても重要なことです。独立性の話、それから透明性が必要だということを言いました、コミュニケーションでも必要だと言いました。

オペレーターとレギュレーターとのインターフェース、正しい関係性が非常に重要。安全が安全じゃないかの大きな境目は、ここにあると思います。と同時に、最終的にオペレーターが第一義的な安全の責任を持っていること、これは変わりません。

司会 何か、ほかに質問はありますか。

はい、どうぞ

記者 電力産業界の専門誌の、電気新聞の近藤と申します。ジャマールリーダーにお伺いしたいんですけど、検査制度の件で、今回、大変改善が進んだと評価されていましたが、今後の話で恐縮ですが、本番は今年の4月から始まります。これを上手く成功させるためには、どういう観点が重要なのか、お願いします。

ラムジー・ジャマール氏 私たちは、独立のレビュアーでありまして、NRAに、このように訪れていて、進捗状況を、2016年と今日という形で、2016年から今日までの進捗を評

価したのであります。プログラムそのものをレビュー、評価したのは専門家でありまして、そして、このプログラムは非常に強力な基盤として、2020年4月以降の実施を強固に支えるものだという評価がされております。

まだ実施は始まっておりません。そうして、実際に検査官が、しかしながら、しっかりとした訓練を受けているというエビデンスは把握しております。

ということで、今日までに、検査プログラムをしっかりと実施することができる能力を備えていると考えております。ということ、既存の職員のコンピテンス、専門能力から、そのように私たちは評価判断したわけでありまして。

しかしながら、更田委員長がおっしゃったように、実施はこれから始まるわけでありまして、このプログラムはまさに実施されることをNRAに対して、私たちは奨励するところであります。

司会 ありがとうございます。

ほかに御質問のある方いらっしゃいますか。

記者 読売新聞のイナムラと言います。

ジャマールさんにお伺いします。

福島第一原発の事故前に、日本には50以上の原発があったんですが、事故後に発足した規制委員会による審査に合格して再稼働に至った原発は9基にとどまっています。

原子力を推進する側は特に、審査が長期化していて、それは規制委員会による体制の不十分さというのを指摘する声も一部にはあるんですが、IAEAとしては、こういう審査の長期化に対して、何に原因があると考えているのか。それを改善する、改善というか、規制委員会と事業者間のコミュニケーションをもっと密にすれば、もう少し審査が合理化されるかとか、その辺をどのように思っているのか教えてください。

ラムジー・ジャマール氏 私、この点に関しましては、NRAが審査のプロセス、それから要件がきちんと整備されているのかという点では、YESです、答えは。プロセスそのものに関しましては、NRAは統合的なマネジメントシステムもありますし、スタッフは、そのプロセスをきちんと踏んでレビューしているわけです。

私は、外交官でも政治家でもないもので、私の率直な意見を申し上げます。NRAのプロセスはNRA独自のプロセスです。ですから、私どもの意見を述べるには、NRA自身がきちんと国の要件にあった意思決定をしているということを説明するという、それから、時間がかかっているということに関しましては、NRAが答える問題だと思います。私どもは、それに対してコメントを言う立場にはありません。私が評価しているのは、今現在、仕組みとして組み込まれているプロセスの品質を評価するという立場にありますので、ビジネスタイムラインを決めるのはNRAです。つまり、時間的なスケジュールを決めるのはNRAです。

この問題に関しては、リアクターオペレーションには色々な複雑な問題が関わってい

ます。ということで、NRAでの意思決定、それから地元での意思決定に関してもまた立場が違う。

ですから、これに関しては更田委員長が答える立場にあるというふうに思いますけれども、私どもからはNRAの能力に関しては評価できるけれども、その他の様々な要因やローカルな問題までも含んだ、こういったことに対する答えをする立場にはないというふうに思います。

記者 ありがとうございます。

司会 ほかに御質問のある方はいらっしゃいますか。

それでは、記者会見はここまでとなります。皆様の御関心、御質問、そして御参加に感謝いたします。

また、回答された方々にもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

- 了 -